

ブラジルの金融政策とレアル相場について

<政策金利を据え置き>

ブラジル中央銀行は1月16日(現地時間)の金融政策委員会において、政策金利を7.25%に据え置くことを全会一致で決定しました。

発表された声明文では、短期的に悪化したインフレ、予想ほど力強くない国内経済活動の回復、海外環境の複雑さ、というリスクバランスを踏まえ、インフレを目標に確実に収れんさせるには十分長期にわたる金融状況の安定が最も適切だとし、ある程度の期間は政策金利を据え置くことを引き続き示唆しました。

<ブラジルレアルは足元で反発>

11月30日に発表されたブラジルの2012年7-9月期GDPが事前の予想を下回る水準にとどまると、ブラジルレアルは1米ドル=2.14レアル程度まで大きく下落しました。その後は金融取引税や米ドルの売り持ち規制といったレアル高抑制策の緩和や中銀の為替介入を受けてレアルは反発しています。また、11月半ば以降に円が主要通貨に対して弱含んだことから、レアルは円に対して大きく上昇しています。1月16日の海外終値では、1米ドル=2.04レアル、対円では1レアル=43.27円程度となっています。

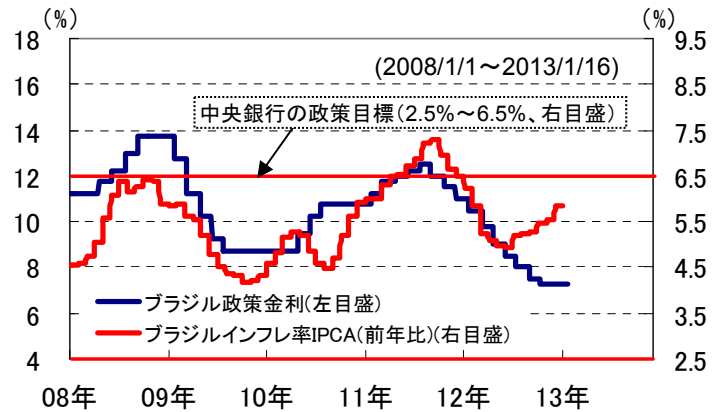
NDF(ノン・デリバブル・フォワード)から逆算されるブラジルレアル(対米ドル)の、いわゆる為替プレミアムは、足元で5~6%程度で推移しています。

<レアルは底堅い見通し>

中銀が1月初めに行ったエコノミスト調査で2012年のGDP成長率予測が1%を割り込むなど、ブラジルの景気は足踏みが続いており、政府は減税などの景気対策を行っています。一方、インフレ率は足元で上昇しており、利下げによる景気下支えを実施し難い状況であることから、中銀は当面、政策金利を据え置くと思われる。

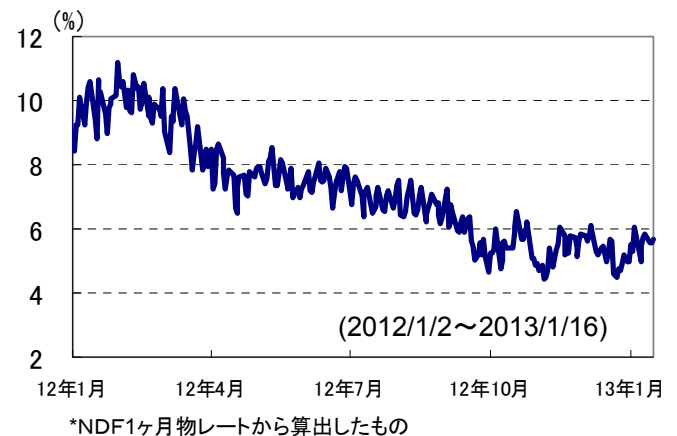
ブラジル当局は輸出競争力の確保とインフレ抑制とのバランスから、レアルを対米ドルで現行水準付近に安定させることを望んでいると思われるため、レアルは当面、1米ドル=2.0~2.1レアル程度で推移すると思われます。中長期的には、ブラジルの金利水準が相対的に高いことなどから、レアルは米ドルや円に対して底堅く推移すると予想しています。

<インフレ指標と政策金利の推移>

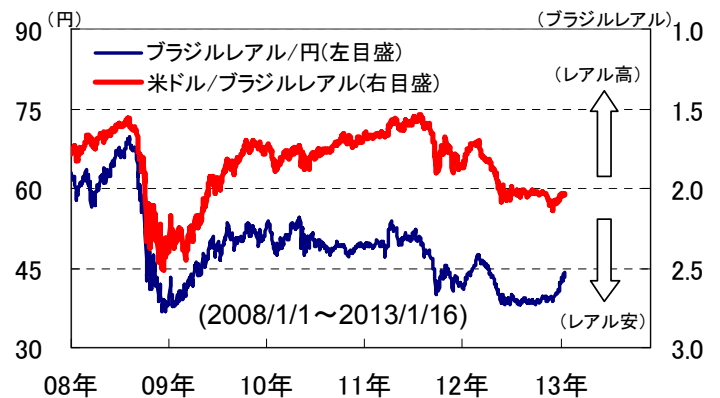


*政策金利は発表日ベース
インフレ率IPCA(前年比)は2008年1月~2012年12月

<為替プレミアム*の推移>



<ブラジルレアル為替の推移>



出所: Bloomberg

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。



商号等
加入協会

大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第353号
一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会